

## 東商園遊会

平成18年4月18日(火)



新緑眩しいなか、高輪「開東閣」にて東商園遊会が開催されました。平成18年4月18日(火) 山口信夫東京商工会議所会頭以下349名が、麗らかな晴天の下に集まりました。「開東閣」は、岩崎家の別宅として明治後期に建てられ、その風光明媚な館と木立に囲まれた広い庭園は現在では迎賓館として使われています。はじめに、会頭からご挨拶があり「今年の商工会議所は、実行する・信頼される・愛される商工会議所をめざしております」と支部活動の重

要性を提言された後、宴が始まりました。1階ホールでは、若手実力派女性カルテット「ドロップ」による弦楽四重奏によるミニコンサートが催されました。本年はモーツァルトの曲も250年にあたり、モーツァルトの曲も楽しめる演奏でした。

「オークの間」では、スペシャル赤ワインコーナーが設けられ、正副会頭から提供された高品質な赤ワインの芳醇な香りに酔い、美味しいランチと歓談で2階のバルコニーも賑わっていました。

中庭では、恒例の縁日コーナーが設けられ、飴細工、新粉飴、べっこう飴の実演がおこなわれ多くの人に囲まれていました。

わずか2時間の園遊会でしたが、東商の皆様とたくさんの方々の交流が充実したひと時となりました。

(記・奥永久美)



## 警視庁本部・国会議事堂視察会

平成18年5月23日(火)



桜田門前の警視庁横へは時間前に55名全員が集合、警視庁の中へと歩を進めました。最初は「ふれあいひろば警視庁教室」で簡単なクイズと警視庁の活動についてのビデオ上映。様々な役割・活動を分かりやすい映像で知ることができました。ついで2班に分かれて「通信指令センター」「警察参考室」へ。「通信指令センター」は実際に「110番」の電話を受ける場所。一日平均5050件の電話があるそうです。

偶然のことながら、110番通報から緊急手配を目的にすることになり、警視庁の事件へ取り組むスピード感と保安に対する熱意をリアルタイムで感じました。「警察参考室」では明治以来の警察の歩みと事件の記録などが展示され、近代警察の歴史を見ることができました。

さて警視庁から歩いて国会議事堂へ。国会議事堂の正面を見ながら、衆議院の見学入り口。ここでさらに14名の会員が参加、総勢69名(事務局を入れて71名)が国会議事堂の中に。赤じゅうたんのの上を歩きなが

ら、高い天井を見て天皇陛下の御休所、中央玄関の上へ。衆議院議場では議場の見学席に腰掛け、案内を聞きながら目の前に広がる雰囲気を感じ、日ごろテレビ中継でしか見ることができない国の最高機関の空間を体験しました。昼食は議員会館で「国会弁当」をいただき、コーヒーの後、吉川稲美副会長の挨拶でお開きとなりました。なかなか見学する機会がない内容だけに、あつという間の4時間あまり。視察会をたっぷり堪能しました。

(記・相坂柚火子)



## 第1回研修会「経営の基本は自己研鑽」

講師：女性会副会長 吉川 稲美氏（株式会社吉香代表取締役社長）

平成18年4月25日（火）

創業から27年の間に培われた経営観や信念について、それまでの人生の喜怒哀楽の話を交えながらの講演に、参加した120名の会員が耳を傾けました。

吉川稲美副会長は青春時代を佐藤栄作元総理の秘書として活躍し、ここでの出会いの中で学んだ知識と経験を活かし、人材派遣・通訳・翻訳（90カ国を扱う）を業務とする、株式会社吉香を立ち上げました。講演では、礼儀・人の道・リーダーの条件という事を中心に秘書時代に学んだことから、現在までの経営観や信念について話されました。

とくに、「起業から現在までの会社経営は、順調な道程だけではなく、一時は倒産の危機を向かえたこともありました。その時の苦い経験



から、観察眼・洞察力等の自分の不足を感じ、これからは深みのある、真実を見抜ける人間になりたい、そのために自分を向上させなければ」と思われ、結局、その為には『自己の内面を徹底的に見つめること』であり、『原因は外にあるのではなく自分自身の内面にある』ということに気づき、この心境に達した時から、想像以上に好転し苦境から立ち上がる事が出来たという、情熱のある講演内容に参加会員からは感動の声が上がっていました。

（記：佐藤廣子）

## 第2回研修会「世界から見た日本の魅力」

講師：山本紀久雄氏（経営ゼミナール・代表／有限会社山本・代表取締役）

平成18年6月29日（木）

平成18年6月29日、会員71名参加のもと、第2回研修会として、経営ゼミナール代表の山本紀久雄氏を講師にお招きして、「世界から見た日本の魅力」をテーマにお話を伺いました。

株式会社資生堂で化粧品マーケティングを担当された山本氏は、世界各国の生活文化事情をつぶさに見てこられ、その経験をもとにこれからの日本、日本企業が「文化で生きて行く覚悟」を決めて新しい方向性を見出すこと、日本文化が海外ではた



いへん注目されている事などのお話を伺いました。また、山本氏が運営に携わっているおりがみ会館の話や、昨今、注目を浴びている大人の塗り絵の話題に触れながら、伝統文化を大切に、トップ1ではなく、オンリー1を目指すことの重要性を伺いました。会員からは、研究が続けられている山岡鉄舟についての質問など活発な意見交換がなされました。

（記：金原好紀）

## 平成18年度 会員総会

平成18年6月13日(火)



ら、監査結果の報告があり、議件は了承されました。

その後は会員表彰が行われ、役員を6年間以上お務めになり、退任された11名に、今日の東商女性会の基礎を築かれた貢献に対して感謝状が贈られました。また女性会の現在の役員で、これまで9年間以上役員をお務めいただいている9名に表彰状が授与されました。

この会員表彰とは、平成16年度に小泉清子名誉会長が全商女性連・会長の折に制定された制度で「全商女性連 表彰規則」をきっかけとして、東商女性会においても、この3月23日の役員会にて新たに制定した「表彰内規」によって実施されました。感謝状を授与された石井須美さんは92歳でいまだ現役。表彰状を授与された伊藤瑛位子さんが、挨拶をしました。

その後、会場を移動し、小泉清子名誉会長の乾杯から懇親会が開かれ、会員同士交流を深めた総会となりました。

6月13日午後5時半から、東商ビル・国際会議場で平成18年度の会員総会が開かれました。72名の新入会員を含め150名以上が参加し、齋藤朝子会長を議長として進行了ました。本総会では、副会長が事業報告、事業計画、収支決算および収支予算を説明しました。

引き続き監査役の佐藤廣子監事か

(記・金原好紀)

## 新入会員オリエンテーション

平成18年6月13日(火)



平成18年6月13日(火)会員総会前の午後5時より、平成15年5月から現在までに女性会に入会された新入会員のうち50名と役員10名が出席し、オリエンテーションが行われました。

去1年間に行われた観劇会、視察会の報告があり、今後も女性会ならではの特別な企画の開催が発表されました。

研修担当市瀬優子チーフサブリーダーからは、研修担当主催の勉強会、講演会の様子。また、8月に行われるサマーセミナーの予告が行われました。

会員の中から講師を選び、そして外部からも公私共に魅力的な講師を迎え、会員のニーズにあった研修会活動を続けていくとの活動方針が説明されました。

情報・広報担当石野康子リーダーからは、現在行っている『東商LADY』『女性会ホームページ』の作成について、取材・原稿・企画・校正・編集を全て担当委員で行っていること、また、今後は会員相互の情報交換の場となるような活動を企画しているため、是非新入会員の協力を願いたい旨の要請がありました。

新入会員からは、所属担当の中途変更が可能か、各担当の活動頻度についての質問がなされ、今後の新入会員の活動が期待されるオリエンテーションとなりました。

吉川稲美副会長司会のもと、齋藤朝子会長より女性会活動の全般についての説明があり、是非三担当委員会に所属して活動して頂くよう要請がなされました。

交流担当山口玲子リーダーから、新年懇親会など定例の交流事業のほか過

(記・石野康子)

## 第211回例会 講演会と懇親会

平成18年9月26日(火)



「勝ち続ける経営」経営の五本柱」  
ISK経営塾塾頭 飯塚保人氏

16名の新入会員を含め約60名の会員が出席し、第211回例会が開催されました。

齋藤朝子会長の開催の挨拶、山崎登美子副会長から講師紹介。勝ち続ける経営に關し、5個のキーワードを基に飯塚先生からお話を伺いました。当たり前のことを当たり前に徹することが経営で勝ち続ける原理原則であること。勝ち続けるためには、常に意識改革を行い、自社事業の優位性を強化することが必要であり、行動の習慣化により「決めて徹する」という勝ち続けるポイントが実現できるという内容のお話の後、出席者の一部が感想等を述べ、盛会のうちに終了しました。

(記：戸塚美砂)



講演会終了後、東商8Fスカイルームにて開催された懇親会には、約60名の会員が参加しました。吉川稲美副会長の進行のもと、講演会で講師の飯塚保人氏のおっしゃった『必ず実行する』という言葉を取り返りながら、明るく爽やかな雰囲気の中の開会となりました。

(記：相坂柚火子)

はじめに渡辺光子副会長より「ぜひこの機会に名刺交換をして、交流が活発になりますように」と挨拶があり、乾杯となりました。次いで開催予定の「チア! ビジネスウーマン2006 in 東京」「東商フォーラム」の紹介がされました。

会員の皆様のなごやかな歓談・食事のなか、小林栄子副会長より、今会に参加の15名の新入会員の紹介がされ、自己紹介として会社の事業などを述べました。最後に安間百合子副会長の挨拶で、会員交流が一層活発になることを祈念して、お開きとなりました。

## 女性経営者ミーティング in 福島

〜電気がむすぶ交流の輪〜

平成18年10月6日(金)〜7日(土)

台風16号、17号が直撃する中、首都圏エネルギー懇談会主催、女性経営者ミーティングが福島県で行われました。

はじめに富岡、楡葉両市にまたがる150万㎡に設置された福島第二原発を見学。累型6159億kwhの電力が発電されています。

ハーブ園や太陽光発電による噴水など地元住民の方との交流に努力されている様子が見られました。

富岡町「学びの森」に場所を移し、福島・新潟女性会の方々と交流ミーティングとして、ゲストに峰竜太氏を迎え、地元への経済効果と安全性について話し合いが行われました。



「ここで生産される電気は、私たちが使えないのよね。この辺りは夜になると真っ暗で…。でも東京に行つた時、夜でも光々と明



かりが灯つていて、この電気は私たちのところで作つてあるんだわって思つたわ」という新潟会員のお言葉が印象的でした。

翌日は大熊町、双葉町にまたがる約350万㎡の敷地にある、30年前に設置された沸騰水型原子炉の福島第一原子力発電所を視察しました。同時多発テロ以降特別保安対策が実施され、靴の履きかえや身分証の提示等厳重なセキュリティチェックが行われています。

資源の乏しい日本で安定した電力を得るため、ウラン燃料による発電が必要とされています。私達が眠っている間も電気は送られ続け消費され続けています。

「福島、新潟の皆様、今日も一日電気をありがとう」

(記：瀬良衣香)